春 2月4日～5月5日（旧暦：十二月十七日～三月十九日）

(24) 二十四節気　(行) 旧暦での年中行事の日付　(雑) 雑節　(候) 七十二候

2/4　立春［りっしゅん］(24)
旧暦 十二月十七日
春の気配をはじめて感じる頃。寒さはピーク。もうこれ以上は寒くなりません。二十四節気の基準日です。

(候)
- (初候) 東風解凍［はるかぜこおりをとく］東風(こち・春風)が氷を解かし始めます。
- (次候) 黄鶯睍睆［うぐいすけんかんす］ウグイスの美しい鳴声が聞こえてきます。
- (末候) 魚上氷［うおこおりにのぼる］ゆるんでわれた氷の間から魚が飛び出します。

2/18　元日［がんじつ］(行)
旧暦 正月朔日
いわずとしれた、新年最初日のことですね。この日の朝が「元旦」です。現在は誕生日に加齢する「満年齢」が使われていますが、 昔は生まれた年を「一歳」として、毎年正月ごとに年をとるという「数え年」という方法で数えていたので、この日に全員が１歳年をとっていました。

2/19　雨水［うすい］(24)
旧暦 正月二日
もう雪は降りません。降るなら雨です、という時期。積もった雪も溶けはじめます。

(候)
- (初候) 土脉潤起［つちのしょううるおいおこる］雨が降り土が湿り気を帯び始めます。
- (次候) 霞始靆［かすみはじめてたなびく］霞がたなびき始めます。
- (末候) 草木萠動［くさきめばえいずる］草木が芽を出し始めます。

2/24　人日［じんじつ］(行)
旧暦 正月七日
５つある節句（五節句）のうちの一つ。七草がゆをたべることから「七草の節句」ともいいます。七草とは「せり」「なずな」「ごぎょう」「はこべら」「ほとけのざ」「すずな」「すずしろ」です。邪気をはらって、万病を除くといわれています。

3/4　小正月［こしょうがつ］(行)
旧暦 正月十五日
その年はじめての満月の頃ですね。豊作祈願などが行われ、あずき粥をたべる習慣がありました。現在では、関東では１月７日まで「松の内」ですが、本来は小正月までが「松の内」でした。(関西では今でも 15 日までが「松の内」)。

3/5　薮入り［やぶいり］(行)
旧暦 正月十六日
七月十六日とともに、江戸時代に、商店などに住み込みの奉公人の休暇日。雇い主からお仕着せ（季節の着物）やお小遣い銭をもらって両親のもとに帰るものもいました。

3/6　啓蟄［けいちつ］(24)
旧暦 正月十七日
虫たちが冬眠からさめてモゾモゾと出てくる時期です。

(候)
- (初候) 蟄虫啓戸［すごもりむしとをひらく］冬眠から覚めた虫が地上に出てきます。
- (次候) 桃始笑［ももはじめてわらう］桃の花が咲き始めます。
- (末候) 菜虫化蝶［なむしちょうとけす］青虫が羽化して蝶になります。

3/18　彼岸［ひがん］(雑)
旧暦 正月二十九日
春分の日を中心にして、前に３日、後ろに３日の７日間のことです。３月 18 日は「彼岸の入り」で、この日から彼岸がはじまります。お墓参りなどの仏事が行われます。

3/20　二日灸［ふつかきゅう］(行)
旧暦 二月二日
「ふつかやいと」とも呼ばれる、お灸を据えて無病息災を祈る行事です。この日と八月二日にお灸を据えると、よく効くそうです。

3/21　春分［しゅんぶん］(24)
旧暦 二月三日
天文学的に、太陽が春分点を通過する日です。つまり、昼と夜の長さがほぼ同じになる日です。現在、この日は祝日の「春分の日」です。

(候)
- (初候) 雀始巣［すずめはじめてすくう］雀が巣を作り始めます。
- (次候) 桜始開［さくらはじめてひらく］桜が開花し始めます。
- (末候) 雷乃発声［かみなりすなわちこえをはっす］雷が鳴り始めます。

4/5　清明［せいめい］(24)
旧暦 二月十八日
草木が芽ぶきます。すがすがしくて明るいのでこういう名前がつきました。

(候)
- (初候) 玄鳥至［つばめいたる］南方からツバメが飛来します。
- (次候) 鴻雁北［こうがんきたす］雁が北へ去ります。
- (末候) 虹始見［にじはじめてあらわる］雨の後によく虹が見えるようになります。

4/17　土用［どよう］(雑)
旧暦 三月一日
各季節の終わりの 18 日の間のことを「土用」といいます。４月 17 日は春の土用に入る日です。

4/19　上巳［じょうし］(行)
旧暦 三月三日
五節句の一つで、「桃の節句」「ひな祭り」とも呼ばれます。平安時代には、この日に紙製の人形をつくって、穢れをうつしてそれを川などに流す習慣があり、いまでも地方によっては「流し雛」の風習として残っています。「桃の節句」は女の子の節句、「端午の節句」が男の子の節句です。

4/20　穀雨［こくう］(24)
旧暦 三月四日
この時期、雨がよく降ります。その雨が穀物を育てるのです。

(候)
- (初候) 葭始生［よしはじめてしょうず］葦が芽吹き始めます。
- (次候) 霜止出苗［しもやんでなえいずる］霜が降りなくなり稲の苗が成長します。
- (末候) 牡丹華［ぼたんはなさく］牡丹の花が咲きます。

5/2　八十八夜［はちじゅうはちや］(雑)
旧暦 三月十六日
立春から数えて 88 日目の日。これ以降は霜が発生することがなくなるとされるので、遅霜への注意をうながすという意味がありました。種蒔きや茶摘みなどをする時期の目安でもあります。

夏 5月6日～8月7日（旧暦：三月二十日～六月二十五日）

(24) 二十四節気　(行) 旧暦での年中行事の日付　(雑) 雑節　(候) 七十二候

5/6　立夏［りっか］(24)
旧暦 三月二十日
夏の気配をはじめて感じる頃。ここから先はどんどん夏に向かって気温が上がっていきます。

(候)
- (初候) 蛙始鳴［かわずはじめてなく］カエルが鳴き始めます。
- (次候) 蚯蚓出［みみずいずる］ミミズが地上に出てきます。
- (末候) 竹笋生［たけのこしょうず］タケノコが生えてきます。

5/17　衣替［ころもがえ］(行)
旧暦 四月朔日
衣類や調度品を夏物に替えます。衣替えがこの日と十月朔日の年２回だったのは、平安時代のこと。江戸時代には、四月朔日に「綿入れ」から裏地のついた「袷」に、五月五日になると裏地のない「単」に、九月朔日に再び「袷」になり、九月九日に「綿入れ」と、年４回の衣替えがあったそうです。現在は６月１日のところが多いようですが、旧暦ならもう半月ほど早く半そでになれますよね。

5/21　小満［しょうまん］(24)
旧暦 四月五日
草木がぐんぐん伸びていきます。

(候)
- (初候) 蚕起食桑［かいこおきてくわをはむ］蚕が桑を食べ始めます。
- (次候) 紅花栄［べにばなさかう］紅花が盛んに咲きます。
- (末候) 麦秋至［むぎのときいたる］麦が熟します。

5/24　灌仏会［かんぶつえ］(行)
旧暦 四月八日
釈迦の誕生日を祝う行事のことをいいます。「花祭り」ともよばれています。草花を飾った「花御堂」を作り、その中に潅仏桶をおいて甘茶を仏像にかける行事です。「花祭り」は、現在新暦の４月８日に行っているところが多いようです。

6/6　芒種［ぼうしゅ］(24)
旧暦 四月二十一日
芒とは「ノギ」というイネ科の植物です。その種をまく時期だそうです。だいたい梅雨入りくらいの時期です。

(候)
- (初候) 螳螂生［かまきりしょうず］カマキリが生まれます。
- (次候) 腐草為蛍［くされたるくさほたるとなる］腐った草の下から蛍が出てきます。
- (末候) 梅子黄［うめのみきばむ］梅の実が熟れて黄色くなります。

6/11　入梅［にゅうばい］(雑)
旧暦 四月二十六日
梅雨入りの時期の目安の日です。農家にとって梅雨入り頃は、田植えをする時期でもあるので、とても重要な意味をもっていました。

6/19　端午［たんご］(行)
旧暦 五月五日
五節句の一つで、「菖蒲（ショウブ）の節句」ともいいます。現在では新暦で執り行われています。菖蒲の音が「尚武」に通ずることなどから、男の子の節句とされています。また、こいのぼりをたてる習慣がありますが、旧暦だと梅雨の頃なので鯉が空で泳ぐことに違和感が少ないかもしれませんね。

6/22　夏至［げし］(24)
旧暦 五月八日
天文学的に言うと「太陽が黄経 90 度を通過する日」です。昼の長さが一番長い日。でも梅雨真ただ中の時期です。

(候)
- (初候) 乃東枯［なつかれくさかるる］夏枯草(ウツボ草)が枯れてゆきます。
- (次候) 菖蒲華［あやめはなさく］アヤメの花が咲きます。
- (末候) 半夏生［からすびしゃくしょうず］半夏(カラスビシャク)が生えます。

7/2　半夏生［はんげしょう］(雑)
旧暦 五月十八日
半夏（カラスビシャク）という薬草が生える頃という意味で、この頃までに田植えを終わらせるという目安の日。天から毒気が降ってくるとされていて、この日に採った野菜を食べるのを慎んだり、井戸に毒気が入るのを防ぐためにふたをしたりしたそうです。梅雨の最中なので、食中毒を防ぐという意味があったのかもしれませんね。

7/7　小暑［しょうしょ］(24)
旧暦 五月二十三日
だんだん暑さが増してきます。ここから次の大暑までが「暑中」になるので、暑中見舞いを書きはじめてください。

(候)
- (初候) 温風至［あつかぜいたる］暖かい(あつい)風が吹き始めます。
- (次候) 蓮始開［はすはじめてひらく］蓮の花が咲き始めます。
- (末候) 鷹乃学習［たかすなわちがくしゅうす］鷹の子供が飛ぶことを学ぶ頃です。

7/20　土用［どよう］(雑)
旧暦 六月七日
夏の土用です。日付には、干支が順番に割り振られていますが、夏の土用の期間中の「丑（うし）」が割り振られている日にウナギを食べる習慣がありますね。こちらは江戸時代の学者の平賀源内が考え出したといわれています。「うなぎ」と「うし」が同じ「う」ではじまるところからの言葉遊びが発想の源だったようです。

7/23　大暑［たいしょ］(24)
旧暦 六月十日
天文学的に言うと「太陽が黄経 120 度を通過する日」です。最高に暑い時期です。

(候)
- (初候) 桐始結花［きりはじめてはなをむすぶ］桐の花が実を結びます。
- (次候) 土潤溽暑［つちうるおいてむしあつし］土がじっとりと湿り、蒸してきます。
- (末候) 大雨時行［おおあめときどきにふる］時々雨が激しく降ります。

秋 8月8日～11月7日（旧暦：六月二十六日～九月二十八日）

(24) 二十四節気　(行) 旧暦での年中行事の日付　(雑) 雑節　(候) 七十二候

8/8　立秋［りっしゅう］(24)
旧暦 六月二十六日
秋の気配をはじめて感じる頃。この日あたりで暑さはピークです。これからだんだん涼しくなります。

(候)
- (初候) 涼風至［すずかぜいたる］涼しい風が吹き始めます。
- (次候) 寒蝉鳴［ひぐらしなく］ひぐらしが鳴きます。
- (末候) 蒙霧升降［ふかききりまとう］深い霧が立ちこめます。

8/19　七夕［たなばた］(行)
旧暦 七月七日
五節句の一つです。織姫と彦星が一年に一回デートする日。新暦の７月７日は梅雨時であることが多いので、毎年のようにデートが中止になっていますが、旧暦だと梅雨明けをしていますので、きちんと会えるということになります。

8/23　処暑［しょしょ］(24)
旧暦 七月十一日
天文学的に言うと「太陽が黄経 150 度を通過するとき」です。暑さがやむ頃、朝夕次第に冷気が加わります。

(候)
- (初候) 綿柎開［わたのはなしべひらく］綿花を包む萼(がく)が開きます。
- (次候) 天地始粛［てんちはじめてさむし］暑さがおさまります。
- (末候) 禾乃登［こくものすなわちみのる］稲が実り、穂をたれる頃です。

8/27　お盆［おぼん］(行)
旧暦 七月十五日
祖先や死者の霊を家に迎えて供養する仏教の行事を執り行います。東京周辺ではお盆の行事は旧暦ではなく新暦の７月 15 日前後に行われています。

9/1　二百十日［にひゃくとおか］(雑)
旧暦 七月二十日
立春から数えて 210 日目の日のことです。台風が襲来する目安となる日です。せっかく育った稲が台なしにならないように、台風にそなえましょう、という意味がありました。

9/8　白露［はくろ］(24)
旧暦 七月二十七日
朝夕に露が見え始める時期です。大気も冷えてきます。

(候)
- (初候) 草露白［くさのつゆしろし］草に露がおりるようになります。
- (次候) 鶺鴒鳴［せきれいなく］セキレイが鳴き始めます。
- (末候) 玄鳥去［つばめさる］ツバメが南方に帰っていきます。

9/11　八朔［はっさく］(行)
旧暦 八月朔日
八月朔日の略で、古くは農家などで豊作を祈る行事が行われました。またこの頃に強い風が吹く（つまり台風）とされていたため、農家にとって注意しなければならない日となっていました。

9/20　彼岸［ひがん］(雑)
旧暦 八月十日
秋の彼岸です。こちらは中心となる日は秋分の日です。春分、秋分の日ともに、太陽がほぼ真西に沈むことから、西方浄土のことを思う、という中国のしきたりが転じて、お墓参りにいく習慣になったという説があるそうです。

9/23　秋分［しゅうぶん］(24)
旧暦 八月十三日
天文学的に言うと、太陽が秋分点を通過する日です。昼と夜の長さがほぼ同じになる日。現在では、この日は祝日の「秋分の日」です。

(候)
- (初候) 雷乃収声［かみなりすなわちこえをおさむ］雷が鳴らなくなります。
- (次候) 蟄虫坏戸［むしかくれてとをふさぐ］虫たちが土にもぐります。
- (末候) 水始涸［みずはじめてかる］田んぼの水を抜く頃です。

9/25　十五夜［じゅうごや］(行)
旧暦 八月十五日
この日の月は「中秋（ちゅうしゅう）の名月」と呼ばれ、古くから月見をするのによい季節とされています。現在でも、十五夜は旧暦で行わざるを得ない行事です。

10/9　寒露［かんろ］(24)
旧暦 八月二十九日
寒くなってきました。露を冷たく感じるようになります。

(候)
- (初候) 鴻雁来［こうがんきたる］雁が渡ってきます。
- (次候) 菊花開［きくのはなひらく］菊の花が咲きます。
- (末候) 蟋蟀在戸［きりぎりすとにあり］キリギリスが戸口で鳴きます。

10/19　重陽［ちょうよう］(行)
旧暦 九月九日
五節句の一つ。菊が咲く時期なので「菊の節句」とも呼ばれていました。最大の陽数「九」が二つ重なり、とてもめでたい日とされています。九日の前夜に菊に綿で覆いをしておき、翌朝露がしみ込んだ綿で顔などをぬぐうと、老いを取り去り、いつまでも若くいられるとされていました。

10/21　土用［どよう］(雑)
旧暦 九月十一日
秋の土用です。「立冬」が冬の気配を初めて感じる日、ということですので、この秋の土用の入りは、“秋もまっさかり”といったところですね。

10/23　十三夜［じゅうさんや］(行)
旧暦 九月十三日
この日も月見をする日です。十五夜は中国や韓国でも月見の習慣がありますが、十三夜は欠点のないことを嫌う日本独自の習慣です。十五夜と十三夜のどちらかしか月見をしないのは縁起が悪いとされていました。

10/24　霜降［そうこう］(24)
旧暦 九月十四日
霜が降り始めます。ほんとに寒くなってきます。

(候)
- (初候) 霜始降［しもはじめてふる］霜が降り始めます。
- (次候) 霎時施［しぐれときどきほどこす］しとしとと小雨が降るようになります。
- (末候) 楓蔦黄［もみじつたきばむ］モミジや蔦が色を変えます。

冬 11月8日～2月3日（旧暦：九月二十九日～十二月二十七日）

(24) 二十四節気　(行) 旧暦での年中行事の日付　(雑) 雑節　(候) 七十二候

11/8　立冬［りっとう］(24)
旧暦 九月二十九日
冬の気配をはじめて感じる頃。秋まっさかりです。これから一段と寒くなっていきます。

(候)
- (初候) 山茶始開［さざんかはじめてひらく］サザンカの花が咲き始めます。
- (次候) 地始凍［ちはじめてこおる］土が凍り始めます。
- (末候) 金盞香［きんせんこうばし］金盞花(キンセンカ)が咲く頃です。

11/10　衣替［ころもがえ］(行)
旧暦 十月朔日
衣服や調度品を冬物にあらためる日です。いまでも学校などの衣替えは 10 月１日ですが、旧暦の場合は大体一ヶ月ほど日にちがずれて後ろになりますから、ずいぶん寒くなってから衣を替えたということになります。

11/23　小雪［しょうせつ］(24)
旧暦 十月十四日
ほんのすこしだけれど、雪がちらついてもおかしくないほど寒くなる時期です。

(候)
- (初候) 虹蔵不見［にじかくれてみえず］虹を見なくなります。
- (次候) 朔風払葉［きたかぜこのはをはらう］北風が木の葉を落とします。
- (末候) 橘始黄［たちばなはじめてきばむ］橘の果が黄色くなります。

12/7　大雪［たいせつ］(24)
旧暦 十月二十八日
いよいよ雪も本格的に降るようになります。動物が冬眠を始めます。

(候)
- (初候) 閉塞成冬［そらさむくてふゆとなる］地の気が塞がり、冬になります。
- (次候) 熊蟄穴［くまあなにこもる］熊が冬眠をします。
- (末候) 鱖魚群［さけのうおむらがる］鮭が川を遡上します。

12/10　顔見世狂言［かおみせきょうげん］(行)
旧暦 十一月朔日
江戸時代の歌舞伎では、毎年十月に役者と劇場がむこう一年間の契約をしたので、契約後最初の公演が十一月に行われました。契約成立したの役者のお披露目です。いわば、歌舞伎の世界のお正月です。

12/22　冬至［とうじ］(24)
旧暦 十一月十三日
天文学的に言うと「太陽が黄経 270 度を通過するとき」です。一年で一番夜が長い日です。柚子湯に入ってかぼちゃを食べましょう。

(候)
- (初候) 乃東生［なつかれぐさしょうず］夏枯草(うつぼ草)が芽吹きます。
- (次候) 麋角解［さわしかのつのおつる］大鹿の角が落ちます。
- (末候) 雪下出麦［ゆきわたりてむぎいず］雪の下で麦の芽が出始めます。

12/24　七五三［しちごさん］(行)
旧暦 十一月十五日
子供が三歳、五歳、七歳になったときに、その成長を祝って、神社に詣でる行事。現在では新暦の 11 月 15 日に行われています。七五三に千歳飴を売るようになったのは、江戸時代になってからのことだそうです。千歳飴が長いのは、子供の長寿を願うという意味が込められています。

1/6　小寒［しょうかん］(24)
旧暦 十一月二十八日
寒の入り（かんのいり）です。これからもっともっと寒くなります。寒中見舞いを書く人はこの日からどうぞ。

(候)
- (初候) 芹乃栄［せりすなわちさかう］セリがさかんに成長します。
- (次候) 水泉動［しみずあたたかをふくむ］凍っていた泉が陽光をうけてわずかに溶けて動き始めます。
- (末候) 雉始雊［きじはじめてなく］キジが鳴き始めます。

1/15　事納め［ことおさめ］(行)
旧暦 十二月八日
農業の仕事をすべて終えるという日になります。関東では、この日からお正月の準備を始めるということで「ことはじめ」ということがあります。また、その意味では、関西では八日ではなく十三日でした。地方によっては、「針供養」をこの日に行うこともあります。

1/18　土用［どよう］(雑)
旧暦 十二月十一日
冬の土用です。いよいよ寒さがピークに向っていく頃ですね。

1/20　煤払い［すすはらい］(行)
旧暦 十二月十三日
お正月の準備のために、大掃除をする日です。現在では、大晦日近くになってから大掃除を行いますが、江戸時代は十二月十三日に行うのが恒例でした。この翌日は「赤穂浪士の討ち入り」が決行された日になります。ずいぶんあわただしい時に討ち入りをしたのですね。

1/21　大寒［たいかん］(24)
旧暦 十二月十四日
天文学的に言うと「太陽が黄経 300 度を通過するとき」です。ものすごく寒い時期です。寒稽古をしたい人はこの日にどうぞ。

(候)
- (初候) 款冬華［ふきのとうはなさく］ふきのとうがつぼみを出します。
- (次候) 水沢腹堅［さわみずこおりつめる］沢の氷が厚くなります。
- (末候) 鶏始乳［にわとりはじめてとやにつく］鶏が卵を産み始めます。

2/3　節分［せつぶん］(行)
旧暦 十二月二十七日
立春の前日。「季節を分ける」ということから、本来は「立夏」「立秋」「立冬」の前日も「節分」なのですが、現在では「春」のみを「節分」というようになっています。

※小寒以降の日付はすべて 2008 年のものです。